令和８年度秋田県総合政策審議会
第３回防災・減災・県土強靭化専門部会（議事要旨）

１　日時　　令和８年８月 25 日（火）10：30～11：30

２　場所　　秋田地方総合庁舎Ｂ０１会議室

３　出席者（敬称略・五十音順）

【防災・減災・県土強靭化部会委員】

及川　真一（日本赤十字東北看護大学　看護福祉短期大学部　講師）

徳重　英信（秋田大学　大学院理工学研究科　教授）

松橋　雅子（M’s 設計室　主宰）

水田　敏彦（秋田大学　情報データ科学部　教授）

【県】

石川　康樹（総務部　副危機管理監（兼）副報道監）

佐藤　正美（建設部　次長）　　ほか関係課室長等

４　議事

（１）　提言に向けた検討

□事務局（建設政策課　杉山課長）

・　第２回専門部会の発言要旨、他専門部会からの参考意見及び提言書（案）について、資料１～３により説明。

●徳重委員

・　はじめに、資料２の他専門部会からの参考意見について、委員の皆様から御意見はあるか。

○他の委員

・　意見なし。

●徳重委員

・　それでは、県として引き続き検討していくということで整理する。

●徳重委員

・それでは提言書（案）の１ページ目について意見交換を行いたいと思う。

「自然災害による死者数」、「家庭での防災活動に取り組む人の割合」

○松橋委員

・　提言書（案）はおおよそこれで良いと思う。
・　先日、自治会の避難訓練に参加した。小さい地域での防災活動は重要であり、参加者はほぼ高齢者である。避難所の設定は各市町村かと思うが、自治会館なども条件が整えば避難所としても良いと思う。行政から自治会館への設備補助が無いのが現状であり、避難所設定の距離を踏まえ、サテライト避難所のような扱いができないか。車椅子を備えることも重要である。

○及川委員

・　立て続けに災害が発生しており、被害の把握に時間がかかり、分散型避難の難しさが明らかになっている。

・　避難所の課題は、季節の問題も含め多様化しており、対象者別の支援の整理が必要である。また、災害が起きる前の対策と、起きた後の対策は分けて考える必要がある。

・　内閣府では、官民連携事業の強化を推進しており、プッシュ型支援を検討しているが備蓄庫が被災すると、住民に物資を届けられないなど課題もある。

○水田委員

・　車中泊のリーフレットを作っているはずだが、周知がまだ足りないと感じている。

・　指標の「防災活動」は範囲が広いが、どういうアンケートで出している数字なのか。

・　家庭で３日以上の備蓄を用意している割合が非常に低いと感じる。少なくとも半分以上になるべきではないか。

□総合防災課　小原政策監

・　県民意識調査で確認している数字である。何らかの防災対策を取っているかを幅広く評価している。

・　３日以上の備蓄を用意している割合が、概ね２割、２日分を持っている方が４割程度、合わせて６割程度は備蓄がある家庭と評価している。すぐに物資を送れるわけではないため、各家庭で最低３日程度の備蓄が必要であるものと捉えている。

●徳重委員

・　御意見は提言３の当たりに関連する内容になると思う。避難所環境の改善に市町村と連携して推進していくこと、サテライト避難所や車中泊など対象者別に取り組むべきなどの表現が現状不足していると考えられる。

□総合防災課　小原政策監

・　避難所は小規模なものも多くあり、自治会館なども指定されている。多種多様な方への対応については、子供やペットがいる方などが課題となっているほか、高齢者など支援が必要な方もいる。

・　避難所までどうやって行けばいいか分からない方もおり、男鹿市などでは「避難散歩」を実施し、実際に避難経路を散歩感覚で歩き、防災意識を高めるような取組も実施している。

□総務部　石川副危機管理監（兼）副報道監

・　「被災者支援の多様化」という表現で提言書に盛り込みたいと思う。

○及川委員

・　災害ボランティアの人材育成も内閣府が推進している。一般ボランティアが対応できない部分は専門ボランティアが必要となるため、そうした人材の育成も重要である。人材育成強化の文言も提言に追加したほうが良い。

●徳重委員

・　石川副危機管理監（兼）副報道監と及川委員の表現をまとめて、「支援策の多様化」といった表現が良いと思う。事務局と最終的に検討してもらいたい。

●徳重委員

・それでは提言書（案）の２ページ目について意見交換を行いたいと思う。

「インフラの老朽化に起因する重大事故件数」、「県内建設企業に就職した新規高校・大学等卒業者数」

○松橋委員

・　災害時には建設産業が非常に重要であり、人手不足解消や外国人材の確保について簡単ではないが、取り組んでいってほしい。

・　地域の道路について、傷んでいる箇所の改修は計画的に実施していると思うが、運転中の事故など急な対応が生じた場合、管理している側でどのように対応しているのか。

□道路課　永澤政策監

・　舗装の穴などによる事故については、事後になるが過失割合に応じて車の修理費を県

の保険で支払っている。

〇松橋委員

・　道路が傷んでいる箇所について、利用者が通報できるシステムがあれば良いのではないか。そうすれば、事故の予防につながるのではないか。

□道路課　永澤政策監

・　そういう仕組みが既にある。電話通報窓口を設けているほか、ＬＩＮＥでも通報可能となっている。なお、週２回道路パトロールを実施し、通行の安全確保に努めている。

●徳重委員

・　そういった通報の窓口などがあることを、もっと周知して欲しい。

〇水田委員

・　文言に修正はない。

・　インフラの老朽化対策は非常に重要であり、発災後の対応に大きく関わるため、しっかりと対応してもらいたい。熊本地震では地震から２週間で九州自動車道が全線開通して、３週間で渋滞が解消された。

〇及川委員

・　文言への意見はなし。

・　水が出ないような状況は各地震災害で起こっている。私有地でも水道管破損により水が出ない方もいて、費用負担も大きく技術者不足により、修理の手が回らない。命に直結する施策であると認識している。

●徳重委員

・　提言２について、災害ボランティアなど、地元の建設業者は災害時に大きな役割を果たしているが、人口減少下において建設業に就職する人を大幅に増やすのは難しいと思う。

・　建設業のみにクローズアップするのではなく、そもそも秋田に住みやすい環境をつくることがもっと重要だと考えている。秋田の魅力向上やそれを伝えていくことが重要である。

・　「住みやすい秋田」について、議論すべきであり親会の総合政策審議会で発言したいと思う。

●徳重委員

・　それでは提言書（案）の３ページ目について意見交換を行いたいと思う。

その他の提言

〇水田委員

・　修正意見なし。

〇及川委員

・　修正意見なし。

〇松橋委員

・　住宅の耐震化については、建築士も防災のＰＲをしていかなければならないと感じた。

・　男鹿の花火大会では、始まる前にＭＣが避難誘導について詳しく説明していた。他県の人も多く集まるようなイベント会場での周知や説明は非常に有効であると感じた。

●徳重委員

・　指標以外の提言として、県産材の利用促進を進めていただきたい。総合評価で評価するのはどうか。指標にするのは馴染まないと思う。

・　災害が発生した際は、地元の力を結集する必要がある。地元の産業力を向上させるためにも御検討を願う。

その他

●徳重委員

・　他にも御意見等あろうかと思うが、予定していた時刻となったため、意見交換を終了する。

・　「議事（２）その他」として、事務局から何かあるか。

□事務局（建設政策課　鈴木）

・　今後のスケジュールについては、各専門部会の親会である総合政策審議会が、10 月 13 日に開催される予定。

・　当専門部会からの提言書の案を提示し、徳重委員長から御説明いただき、審議会の了承を得て、審議会から県への提言となる。

・　提言書の案は徳重委員長と事務局で文案の調整を進めるが、最終版は他の委員の皆様にも共有させていただく。

●徳重委員

・　他に委員の皆様から連絡等はあるか。

・　今回の専門部会が３回目の開催となり、非常に有意義な議論ができた。今回取りまとめられた提言は、来年以降の総合計画の具体化や推進において不可欠な要素であるため、引き続き関係者の皆様には、御理解と御協力をお願いする。

・　進行を事務局に戻す。

□建設部　佐藤次長

・　熱心な御審議をいただき、感謝申し上げる。

・　自然災害対策や安全確保は全政策の基礎となる重要な分野であると認識しており、今回の専門部会から出された意見や提言を政策に反映させ、今後も防災・減災に向けた取組を推進していきたいと思う。

□事務局（建設政策課　目黒チームリーダー）

・　以上をもって、令和８年度秋田県総合政策審議会第３回防災・減災・県土強靱化専門部会を閉会する。

以上